

1 安全安心のまちづくり

(1) 防犯カメラの設置について

防犯カメラは、誘拐のような凶悪な事件を未然に防いだり、事件解決を早め、人命救助につながります。空き巣等の防犯対策にもなります。また、子どもや高齢者や認知症者の行方不明者の発見にも効果があります。

自治会等が防犯カメラを設置する場合に助成する制度を設ける自治体が増えています。磐田市がこの制度を取り入れる考えがあるのか伺います。

現在の公共施設への防犯カメラ設置状況と、今後の設置計画について伺います。

(2) 地域の見守り体制について

大阪府寝屋川市の中1男女の事件では、尊い命を救うことができなかった事は残念でした。犯人が一番悪いのは当然ですが、保護者は、未成年者を監督保護する義務があります。保護者は、未成年者を深夜（午後11時から朝4時まで）外出させないように努めなければならない。ただし、正当な理由がある場合は、この限りではない、と静岡県青少年のための良好な環境整備に関する条例で定められています。保護者の責任も大きいのですが深夜、中1男女2人の存在に気づいていた地域の人々の声掛けや、保護のための警察への連絡があったならば事件が防げたかもしれないと感じました。深夜、未成年への声掛けは勇気がいります。複数での対応が良いと思います。さらに市民力、地域力のある磐田市にしていきたいものです。これらを踏まえ、地域の子どもは地域で守る体制について、現在の取り組み状況及びこれから新たに取り組むことがあるのか伺います。

2 外国人観光客誘致の取り組み

- (1) アジアを中心に多くの外国人観光客が日本を訪れています。静岡空港の利用も増加しています。静岡県内では、富士山、伊豆の温泉や景勝地、浜名湖等に外国人観光客が訪れています。人気があるのが、東京から富士山に立ち寄り、京都や大阪へ向かう「ゴールデンルート」と呼ばれるコースです。しかし、磐田市ではホテルの宿泊のみで市内での観光にあまりつながっていないようです。外国人観光客へのアンケートでは、再度日本への訪問希望が多く、実施したい項目は、日本食を食べる事、ショッピング、自然景勝地観光、繁華街の街歩き、温泉入浴、旅館宿泊、歴史・伝統文化体験、日本の酒を飲むこと等となっています。磐田市にも、外国人観光客を呼び込めるものがあります。外国人観光客誘致について、今までの取り組み状況と課題、今後、新たな取り組みがあるのか伺います。

3 耕作放棄地に健康増進作物の導入支援について

- (1) 耕作放棄地に、エゴマの栽培普及を遠州中央農協では勧めています。エゴマ油は、最近健康食品として注目されています。エゴマ油に含まれるアルファリノレン酸が、動脈硬化、血圧低下、ダイエット等に効果があるとされています。安全性から国内産の需要があります。栽培者や家族や地域の人々の自給的栽培から始め、将来はビジネスモデル化を図っていきます。栽培者や家族や地域の人々が健康になることは医療費・介護費の削減、健康寿命につながります。

現在取り組んでいることは、エゴマの機能性をPRした仲間づくり、行政や地域との連携、ビジネスモデルの可能性の模索、健康食品としてのこだわりを重視し、農薬不使用・化学肥料無施用の栽培技術の蓄積を図る、日本エゴマの会での情報収集、搾油機の導入、エゴマ油の商品サンプルによる営業と販売方法の検討、機能性表示の申請です。

遠州エゴマの会として、活動を始めたばかりですが、自ら汗をかくエゴマ栽培者が健康を回復する事を原則としています。生産性のみの追求でなく、安全・安心の食料提供と食料自給の大切さも提起しています。当面は、栽培技術の確立と安定的な栽培を目指しています。エゴマは新たな特産品となりうる可能性を秘めています。

耕作放棄地対策と市民の健康増進、さらに産業振興につながるエゴマ栽培やエゴマの会への市としての支援について見解を伺います。

- (2) 耕作放棄地にオリーブの栽培に取り組む農家が出てきましたが、市としての支援策について伺います。
- (3) 耕作放棄地に薬草栽培の普及推進に取り組む自治体が増えています。背景には農業の活性化策として、平成25年度から国の補助金事業が開始されたこと。生薬の供給の9割が輸入で、近年、価格上昇、品質低下が課題となったこと。消費者の安全・安心の観点から国内産生薬の確保が求められていること。などが考えられます。市として取り組む考えがあるのか伺います。